

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催フィールド言語学ワークショップ

第 20 回文法研究ワークショップ

「言語接触の諸問題 (2)」

開催のお知らせ・募集要項

言語接触は、社会言語学・歴史比較言語学・地域言語学・言語類型論・言語習得／獲得など、言語学の多様な分野と関連し、言語記述においても看過できない現象の 1 つです。本ワークショップでは、記述言語学を研究する若手研究者が中心となり、東南アジア・南アジア・西アジアなど様々な地域と状況において起こっている言語接触をめぐる問題について発表を行います。また、昨年度の第 1 回目のワークショップで発表した若手研究者もコメンテーターとして議論に参加することで、言語接触についての理解を深めます。上記のテーマにご関心をお持ちの方のご参加をお待ちしております。

記

1. 開催日時：2022 年 2 月 18 日（金）10:00–12:30
2. 開催場所：ZOOM 会議室（招待メールは開始 1 時間前までに参加者にお送りします）
3. プログラム：09:45 開室
10:00–10:10 倉部慶太（AA 研）
趣旨説明
10:10–10:40 吉田樹生（東京大学大学院）
「シンハラ語の数標示と言語接触」
10:40–11:10 山岡翔（京都大学大学院）
「ベトナム語北部方言における方言間接触：[l], [n] 間の
ゆれをもとに」
11:10–11:40 北村萌（東京大学大学院）
「ドマリ語エルサレム方言とアラビア語の言語接触：
Diasystematic Construction Grammar による分析」
11:50–12:30 参加者全員
全体討論

コメンテーター：カルリノ・サルバトーレ（九州大学）、鄭雅云（京都大学大学院）、
仲尾周一郎（大阪大学）、宮川創（京都大学）、林愷娣（九州大学大学院）

4. 参加資格：上記のテーマに関心のある研究者・学生
※ 大学院生以上を原則とします。それ以外の方についてはメールでご相談ください。
5. 定員：20 名程度

6. 参加申込方法：下記 URL にアクセスして、専用フォームからお申し込みください。折り返し自動返信メールが届きますので、ご確認ください。なお、右記 QR コードからでも同じページにアクセスできます。



<https://lingdy.aa-ken.jp/activities/training-ws/220218-flws-gram/>

7. 申込締切：2月17日（木）正午（ただし定員に達し次第締め切ります）

8. 問い合わせ先：

「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築（LingDy3）」事務局
info-lingdy[at]aacore.net（[at]を@に変えて送信ください）

9. その他：

- ・ワークショップは日本語でおこないます。
- ・参加は無料です。

※ご不明な点がございましたら、上記「8. 問い合わせ先」までご連絡ください。

※文法研究ワークショップは、記述言語学を志す学生や研究者が最新の研究成果や調査データを紹介しあうことにより、学生・研究者の交流や、情報共有を行なうことを目的としたワークショップです。過去のワークショップにつきましては、以下をご覧ください。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/fieldling-ws/grammar-wr-ws>

主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築（LingDy3）」

以上